

## インタビュー

### 家族に迎えて

センターから譲渡されたワンコ  
その後、どうしていますか？

怖がりだったもふみちゃん  
今では散歩が大好きになりました

京都市伏見区 星野 様



星野さんは12年間飼っていた犬を看取られ、2年前に野犬の子犬のもふみちゃんをセンターから引き取られました。

迎えられた当初のもふみちゃんは、サークルから出てくることもなく気配を消して、ふとしたことで驚いて失禁してしまうことを珍しくありませんでした。

野犬のもふみちゃんにとっての嫌なこと、好きなことを日々考えながら、共に暮らすうちに、少しずつ星野さんの声と動きから

感情を理解し、気持ちを通わせてくれたよう、今ではお散歩が大好きになり、おそれやターンなど、色々な芸を覚えてくれました。

「尻尾を振りながら目を合わせてくれるなど、他の犬が当たり前にできる些細なことをしてくれるのが、感動するくらい嬉しい」と、もふみちゃんとの生活について話してくださいました。

今回のインタビューを通じて、野犬を

飼う難しさを知った一方で、星野さんともふみちゃんの信頼関係は、一般的な飼い主と犬の関係性よりも特別なものだと感じました。(はしもと)

## 犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～



◀譲渡犬・譲渡猫の  
詳しい情報は  
こちらから

毎月  
第2土曜日  
13時～15時  
**犬の譲渡会**  
(保護犬見学会)  
を開催しています



※既に譲渡先が決定している場合があります。

譲渡できる方の主な条件（詳細は、センターへ御確認ください。）

- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者自身が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅にお住まいであること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できること。
- など



ヘス 推定4歳 メス 12kg

チョコ 推定6歳 オス 6.8kg

リヴァイ 11歳 オス 15kg

ヤザ 1歳 メス 10kg

フク 1歳 オス 10kg

### 京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
  - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
  - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません。

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地  
TEL: 075-671-0336  
FAX: 075-671-0338  
開所時間: 午前9時～午後5時  
休所日: 木曜日（祝日の場合は翌平日）  
年末年始

Facebook ➔ <https://www.facebook.com/anilove.kyoto/>

Twitter ➔ <https://twitter.com/kyotoanilove>

Instagram ➔ <https://www.instagram.com/kyotoanilove/>

YouTube ➔ <https://www.youtube.com/channel/UCbbBeFXEkv0EgAuAuUqjg/featured>



京都動物愛護センターマスクットキャラクター  
LINEスタンプ第2弾発売中  
→こちらから  
  


本紙の作成には“京都市動物愛護事業推進基金（人と動物が共生できるまちづくり基金）”が活用されています。動物愛護推進基金に寄附していたいただいた方のうち、希望者についてはホームページで公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。  
なお、寄附の方法については、こちらのホームページを御覧ください。  
➡<http://kyoto-ani-love.com/>



この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

京都動物愛護センター 機関紙

# 愛ランド通信

—人と動物の共生を目指して—

## 特集

### 犬の避妊・去勢手術

動物お悩み相談室

食べたら危険！  
～食中毒と誤食について～

ペットのためのマナー&ルール  
マイクロチップの装着を！  
～安全で確実な個体識別～

ボランティア犬猫数珠繋ぎ

一緒に暮らす毎日が宝物

インタビュー 家族に迎えて

怖がりだったもふみちゃん  
今では散歩が大好きになりました



モデル：チャップ 8歳 メス

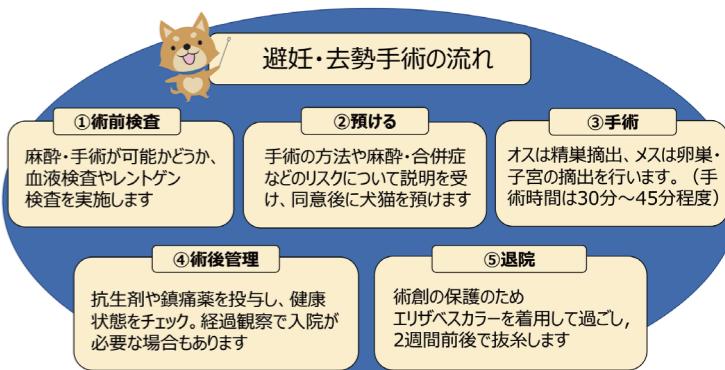
## 特集 犬の避妊・去勢手術

犬の避妊・去勢手術はなぜ必要なのでしょうか。そもそも「避妊・去勢手術って何？」と思われる方もいらっしゃるでしょう。避妊とは、メス犬の卵巣・子宮を取り除く。去勢とは、オス犬の精巣を取り除くことをいいます。この手術をすることで、その犬は生殖能力を失うことになります。

「そんなのかわいそう」「病気でもないのに身体にメスを入れて切るなんて考えられない」「うちは室内飼いだから他のオス犬メス犬と触れ合わないし、散歩でもリードをしているから必要ない」と思われる方もいらっしゃると思います。

一方で、動物病院では繁殖予定がない犬に対して避妊・去勢手術を勧められることがあります。手術をすることで病気の予防ができる、望まない妊娠によって誕生して、行き場がなくなってしまう命を減らすことにつながるからです。

避妊・去勢手術はどちらも全身麻酔下で実施されます。術後に日帰り



可能か入院が必要かなどの詳細についてはかかりつけの動物病院に御確認ください。また、手術費用については、去勢手術よりも、避妊手術の方が高くなることが一般的です。

LINE  
スタンプ  
第2弾  
発売中

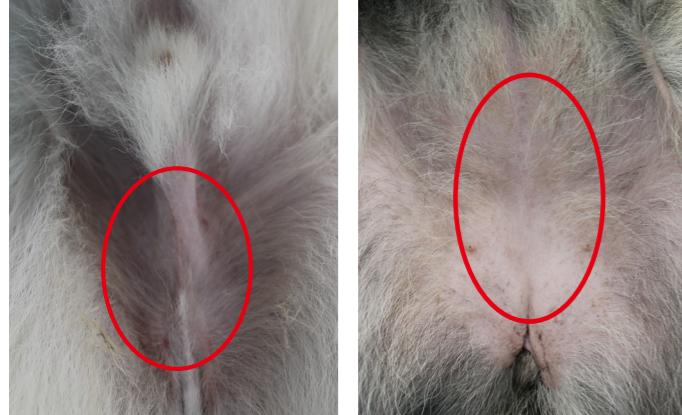
## 避妊手術のメリット

メス犬の場合、将来起りうる病気を予防することができます。例えば、避妊手術をしなかった犬の4頭に1頭は乳腺腫瘍が発生し、発生した腫瘍の半数は悪性という統計があります。卵巣を取りホルモンの影響を減らすことでこの病気を予防できますし、卵巣ガンも予防できます。

手術のタイミングについて、若い時に避妊手術を実施することで乳腺腫瘍の発生率を大幅に下げることができるため、1~2歳までの避妊手術が推奨されます。

また避妊手術で子宮蓄膿症という病気も予防できます。子宮蓄膿症は命に係わる病気で、発症した場合は手術による子宮の摘出が必要になります。高齢で発症した場合は麻酔のリスクに加えて入院日数も伸び、飼い主の経済的負担も大きくなります。

筆者の愛犬は14歳で子宮蓄膿症となり手術を受けました。10歳前に緑内障により2年ほどの間に順に両眼の摘出手術を受けており、また手術を受けさせるのかと思いましたが、内科的治療では改善せず手術を実施しました。高齢でしたので輸血も受けてなんとか治療していただきました。若い頃に手術しておけば、非常に後悔しました。



▲赤枠部が手術の術創（左写真：去勢手術後、右写真：避妊手術後）  
写真は術後1ヵ月後だが、術痕はほとんど残っていない。

## 去勢手術のメリット

オス犬の場合も、前立腺肥大・会陰ヘルニア・精巣腫瘍といった病気の予防効果を期待できます。

また、性的な興奮や衝動を抑えてあげることや、脱走犬や迷子犬となってしまった際に望まない妊娠を防げることも、去勢手術のメリットとして挙げられます。

手術のタイミングとしては、オス犬の場合も手術可能になり次第、若いうちに実施することが望されます。一方で、大人になってからでも、持病がなく手術のリスクが低いと判断されれば、安全に手術を実施できます。



▲避妊・去勢手術で  
2頭以上の飼養も安心

## デメリットはないの？

1点目は太りやすくなることです。これはホルモンバランスの影響で代謝が落ちてしまうことが原因です。これを防ぐには、フードを低カロリーのものに変更する、散歩等の運動をしっかりさせて消費カロリーを増やす、といった工夫が必要です。

2点目は子どもを作ることが出来なくなることです。しかし、繁殖の予定がない犬については、このデメリットについては考える必要がありません。

3点目は手術の体への負担です。ただし、左記のように高齢になってからではなく、若くて体力のあるうちに手術をする方が安全です。

### まとめ

昨今、ニュースで「多頭飼育崩壊」といった問題を目にします。避妊・去勢手術をせずに、ペットを無秩序に繁殖させ、管理しきれない頭数に増えてしまうと、社会的な問題となります。こういった問題も、飼い始めた時点で早期に避妊・去勢手術を実施していれば、防げたことです。

病気の予防という観点でも重要なことですが、何よりも、自分がこういった問題の当事者にならないよう、避妊・去勢手術を検討しましょう。

今回この記事を書くにあたってボランティアスタッフで話し合った際、飼い犬の避妊・去勢を経験したボランティアが数名いました。その中には、高齢になってから手術をした人や、必要性は理解しているても手術に踏み切れなかつた人など、飼い主さんごとに手術のタイミングは様々でした。一方で、共通していたのは、手術の実施が遅れてしまったことへの後悔と、手術が済んでいることの安心感でした。

筆者は約50年前、初めて犬を飼いましたが、フィラリアに感染してしまい、5歳半で亡くなりました。

獣医学の進歩により、そのフィラリアは予防できる病気となり、犬の寿命は年々伸びています。しかし、寿命の延伸にともなって、悪性腫瘍など様々な病気に罹患する高齢犬も増えています。こういった病気のリスクを低減するためにも、避妊・去勢手術を受けさせましょう。（柴田）



▲筆者の愛犬



## 食べたら危険！ ～食中毒と誤食について～

### 食中毒を引き起こす食べ物

人と同様ように犬・猫にも食中毒があります。人にとっては身近な食べ物でも、犬・猫にとっては毒になるものがあり、例えば「※ネギ類」「紐状のもの」「ビニール袋」「スponジ」に加えて、「タバコ」や「人用の薬」などが挙げられます。口にしそうな物はペットが届かないところに置く、おもちゃは遊び終わったら片付けるなどして予防しましょう。

### 食べ物以外にも注意！

食べ物以外でも、誤食により消化管の閉塞を起こすものがあります。具体的には「犬猫用のおもちゃ」「紐状のもの」「ビニール袋」「スponジ」に加えて、「タバコ」や「人用の薬」などが挙げられます。口にしそうな物はペットが届かないところに置く、おもちゃは遊び終わったら片付けるなどして予防しましょう。



### もしもの時は？

手遅れにならぬうちに、動物病院へ連れて行きましょう。その際、いつ・何を・どのくらい食べてしまったのかを獣医師に伝えることで、診断の手掛かりになり、適切な処置に辿り着く可能性が高まります。

食中毒や誤食は飼い主の注意で防げる事故の一つです。ペットの周りに置かれているものを定期的に見直し、日々気を付けていきましょう。

## ボランティア犬猫数珠つなぎ

～一緒に歩む大切な家族～

### 一緒に暮らす毎日が宝物

第6期ボランティアスタッフ 島口 隆司



▲24歳クロちゃん。  
元気いっぱいです。

### ペットのためのマナー&ルール

## マイクロチップの装着を! ～安全で確実な個体識別～

マイクロチップとは米粒大の電子標識器具で、固有の情報が記録されています。これをペットに装着することで、確実な身元証明になります。既に世界中で広く使われており、生体への安全性も高いとされています。

京都動物愛護センターにおいて犬猫が保護された際、マイクロチップにより飼い主情報が速やかに判明し、スムーズに再会できた事例が複数あります。

大切な家族のために、マイクロチップ装着のご検討をお願いします。（hoku）



この子たちのお世話をきっかけに、保護犬猫にも関心を持ち、愛護センターでボランティア活動を始めることができました。

高齢猫2匹は認知症や腎不全、乳がんなど、それぞれで病を抱えながらも長生きしてくれているのは本当にありがたく、1日1日、一緒に過ごせることに幸せを感じています。もくちゃんも長く健康で暮らしてほしいと願いつつ、今日も3匹のお世話をしています。